

平成27年度障害者支援施設青松苑事業報告書

青松苑は、生活介護、就労継続支援B型、施設入所の各事業を事業計画に示す諸課題に積極的に取り組み、利用者や地域等のニーズを的確にとらえ地域における社会福祉事業の担い手として着実に信頼される施設づくりに努めました。また、青松苑を利用する皆さんの安全・安心の確保に向けリスクマネジメント体制の強化を図るとともに、利用者へ質の高いきめ細かな福祉サービスを提供しています。福祉サービスの提供にあたっては、法律を遵守し、福祉専門職の倫理観を持ち、利用者のニーズに対応し、人権と人間性を尊重し、専門的サービスを提供することを目的として、「社会福祉法人けやきの村事業計画」に基づき、それぞれの事業及び分野で次の事業を行いました。

1. 実施した事業と目的

(1) 生活介護

利用者のニーズに応じて自立した日常生活又は社会生活を健康で明るく、楽しく、安心して営むことができるよう、入浴、排泄及び食事の介護、創作的活動又は生産活動の機会の提供等各種の日中プログラム及び日常生活能力の維持・向上を目的とした支援を実施し、適切かつ効果的に行いました。

(2) 就労継続支援B型

利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、就労の機会を提供し、生産活動その他の活動の機会の提供をとおして、知識及び能力の向上のために必要な訓練及びその他の便宜を適切かつ効果的に行いました。

(3) 施設入所支援

利用者が健康で安心して生活ができるよう住環境の改善や整備を図りながら、日中活動と併せて、夜間等において心地よい場を提供し、その人らしい生活を営むことができるよう入浴、排泄及び食事の介護等の便宜を適切かつ効果的に行いました。

2. 運営管理

(1) 施設は、契約に基づいた利用者本位の支援の提供を基本とするとともに、利用者への情報の提供、苦情解決、サービス評価の実施等社会福祉法に基づく適正なサービスの提供と質の向上を図るため、体制の整備と職員一人ひとりの自己研鑽により、利用者のニーズに十分応えられる施設運営、職員像の形成に努めました。

(2) 施設は、利用者の人権に配慮したサービスを提供し、虐待の防止に向けた具体的な取り組みと体制整備に努め、職員倫理綱領、職員行動指針の遵守と利用者の人権擁護に努めました。

(3) 施設は、利用者の立場に立った施設支援を提供するものとし、できる限り居宅に近い環境で、地域や家庭との結びつきを重視した支援を行い、市町村のほか保健医療や福祉サービス事業者との連携に努めました。

(4) 施設は、利用者一人ひとりについて適切なアセスメントを行い、利用者のニーズに基づいた利用者の生活の質(QOL)を高めることに重点を置く個別支援計画を策定し、エンパワメントの理念を尊重した利用者本位のサービスの提供に努めました。

(5) 施設は、安心・安全に快適な生活が送れるよう、アクシデントやインシデントの要因分析と対策の実施と危機管理体制を強化し、サービス提供過程における事故の未然防止に努めました。

- (6) 施設は、利用者の社会参加、地域住民との交流、地域との連携を深めるとともに、ボランティアの積極的な活用と受け入れ体制を整備し、社会、地域との関係の維持・促進に努めました。
- (7) 施設は、地域連携やネットワークへ参加協力するとともに、災害時に被災者の安全・安心を確保し、福祉避難所としての支援体制を整備しながら地域防災拠点機能の整備に努めました。
- (8) 施設は、質の高いサービスを提供するために、障害者支援の専門性や技術等の向上のため、各種研修会等へ職員を積極的に出席させ、職員の資質の向上に努めました。

3. 諸 会 議

障害者支援施設青松苑における会議・委員会機構図により、それぞれの会議及び委員会を随時または定期的に関催し、適切な施設運営並びに適切なサービスの提供に反映させました。

4. 生 活 支 援

- (1) 利用者のニーズを認識し、個々の利用者の意向にそった個別支援を行うため内容の充実を図り、集団生活、余暇活動、生産活動など様々な社会資源を活用して、利用者が地域生活力を身につけ、充実した豊かな生活が送れるよう目標を設定して実践しました。
 - ①利用者の意思と尊厳を保持し、人権やプライバシーに配慮した対応・支援を行い、利用者のニーズを反映した支援サービスの提供に努めました。
 - ②利用者及び家族の意向・ニーズを把握し、個別支援計画を策定し、それに基づくサービスの提供と再評価を行い、より効率的・効果的なサービスが提供できるように努めました。
 - ③利用者の意向に添い、自立した社会生活がおくれるように支援し、また高齢化する利用者の健康を維持するために、毎日の健康活動の充実と継続に努めました。
 - ④障害の重度化・高齢化によりADLが低下している利用者について、個々の身体的・精神的状況に応じた支援サービスに努めました。
 - ⑤グループワーク等を活用し、個別性・意思の尊重、リーダーの育成を積極的に推進しました。また、利用者が苑生会活動や施設の行事計画立案に参加するなどにより、自立性・社会性を基に利用者主動となる支援に努めました。
 - ⑥日中活動としてのレクリエーション・生産活動・余暇活動の充実を図り、自発的に参加する機会を提供するとともに地域社会に関われるように支援しました。
 - ⑦利用者からの相談や苦情については迅速かつ適切な対応を心がけ、相談しやすい雰囲気や相談の場を提供し、相談支援の質を高めました。
 - ⑧防火管理上の安全を図るため、電気器具等の使用上における注意事項の遵守を徹底させるとともに、地震・風水害などの災害に備え日頃からの点検に努めました。
 - ⑨地域社会の情報を提供し、社会資源を有効に活用することにより、生活支援の拡大を図りました。
 - ⑩館内を全面禁煙とし、受動喫煙による健康被害の防止に努めました。
 - ⑪個人情報の取扱い及び守秘義務について十分配慮した支援に努めました。

(2) 主な年間行事は下記のとおり実施しました。

行 事					
4月	開苑記念日	昼の会	介護外出	避難訓練	余暇活動支援
	花見会	グループワーク	理髪		
5月	昼の会	介護外出	避難訓練	余暇活動支援	理髪
	グループワーク				
6月	昼の会	介護外出	避難訓練	余暇活動支援	バイキング
	バスハイク	グループワーク	理髪		
7月	昼の会	介護外出	アニマルセラピー	避難訓練	余暇活動支援
	グループワーク	理髪			
8月	昼の会	結核検診	納涼盆踊り	夏季帰省	介護外出
	避難訓練	余暇活動支援	理髪	グループワーク	バーベキュー
9月	昼の会	防災の日	グループワーク	生活習慣病健診	余暇活動支援
	けやき祭	介護外出	避難訓練	理髪	
10月	昼の会	グループワーク	市スポーツ大会	中野地区運動会	避難訓練
	芋煮会	バスハイク	介護外出	余暇活動支援	理髪
11月	昼の会	グループワーク	苑生会記念行事	介護外出	避難訓練
	余暇活動支援	健康教室	理髪		
12月	昼の会	グループワーク	作業室大掃除	介護外出	避難訓練
	クリスマス会	冬季帰省	理髪		
1月	新年会	昼の会	グループワーク	成人を祝う会	避難訓練
	余暇活動支援	理髪			
2月	昼の会	グループワーク	節分	利用者検診	余暇活動支援
	防災教育	ゲーム大会	理髪		
3月	昼の会	グループワーク	避難訓練	余暇活動支援	バイキング
	理髪	生活習慣病健診			

嘱託医出務：第1、第3火曜日
 介護外出：買い物、食事、散歩等のコースで実施（1、2、3月除く第3木曜日）
 バスハイク・遠足：観光等の日帰りの旅行を2コース（長距離・短距離）6回に分けて実施
 理髪：第1、第3火曜日に実施 ※隔月1回
 昼の会・グループワーク：毎月実施
 日中活動支援：創作活動、レクリエーション、リハビリ訓練等を計画的に実施
 歯みがき指導：ボランティアによる口腔ケア指導（毎月第3土曜日）
 アニマルセラピー：7月 ※以後3回の計画は都合により中止
 生産活動：午前9時～午後3時を基本に個々の状況に応じて生産活動に参加
 その他：季節の行事

5. 健康管理

(1) 利用者の健康維持のため、個々の障害程度や健康状態を把握し、定期検診を実施するとともに、嘱託医師及び関係医療機関等との連絡を密にし、疾病の予防、早期発見・治療に努めました。

- (2) 利用者自身が健康の自己管理をできるような認識を持たせること、又、健康に必要な知識・判断力を身に付けさせるよう個別及び集団指導を行いました。
- (3) 高齢化・重度化に伴い、生活習慣病や合併症の予防に努め、積極的に食生活・健康相談等の助言・指導を行いました。
- (4) 利用者の健康保持のため、環境整備・衛生管理に努めました。
- (5) 利用者の健康診断を次のとおり実施しました。
 - ①体 重 測 定： 月1回
 - ②嘱託医の診察： 月2回
 - ③結 核 検 診： 年1回（胸部直接撮影）
 - ④心電図・血圧： 年1回
 - ⑤生活習慣病検診： 年2回（尿検査、血液検査）
- (6) 口腔外科往診や歯科衛生士による指導及び歯みがきボランティア等を活用して、摂食・嚥下の問題に対応し、他職種連携により口腔内の衛生状態、嚥下、咀嚼等の口腔機能の改善を図りました。
- (7) 感染症予防対策に努めました。
 - ①インフルエンザ、ノロウイルスの発症及び蔓延防止の対策、マニュアルに基づくインフルエンザワクチン接種、「咳エチケット」の推進、マスク着用、うがい・手洗いの指導を行いました
 - ②健康管理（睡眠・栄養）の把握と流行時期に先駆けて注意喚起を行いました
 - ③環境衛生の徹底と室内環境を整えました
 - ④感染を最小限に抑えました
- (8) 利用者の心身の安定を図るため、ストレスや不安などの精神的な負担が緩和できるよう全職員で心のケアの支援に努めました。

6. 給 食

給食は、利用者の楽しみにしていることのひとつであり、健康管理上もっとも大切なこととして、安全でおいしい食事の提供に努めました。

- (1) 栄養スクリーニングにより、個々の健康状態を把握し、また栄養ケア計画を作成して、アセスメント、モニタリングの実施により個々の栄養管理を行い、必要に応じて栄養相談を行いました。
- (2) 献立は、十分な栄養と変化に富んだ内容とし、且つ調理にあたっては、利用者の嗜好や身体的条件による食事動作の障害を十分に配慮しました。
- (3) 給食委員会を毎月開催し、利用者の希望等を献立に反映させるとともに、嗜好調査を年1回以上実施し、利用者のニーズに合った食事を提供するよう心掛けました。
- (4) 治療食については、献立、調理において対応するとともに、利用者個人に自覚を促し、栄養に関する支援を行いました。
- (5) 献立には行事食並びに旬のものを取り入れて季節感を持たせ、盛り付けや味付けを工夫するなど変化のあるものを提供するように努めました。
- (6) 利用者の要望に基づき選択メニューやバイキング形式を積極的に取り入れ、利用者を楽しい食事を提供しました。
- (7) 食品の保管には十分に注意し、常に調理室の整理・整頓・清潔を心がけるとともに、保健所等の指導のもと食中毒の予防に万全を期すよう努めました。
- (8) 調理に使用する食器・冷蔵庫・器具類の点検と管理を徹底しました。
- (9) 給食業務外部委託業者及び施設・職員との連携を密にしました。

※ 主な給食計画を次のとおり実施しました。

月別	給 食 計 画			
4月	開苑記念日	花見会		
5月	端午の節句			
6月	旧端午の節句	バイキング		
7月	七夕	土用丑の日		
8月	納涼大会	バーベキュー		
9月	防災の日	秋彼岸	敬老の日	月見
10月	芋煮会			
11月	苑生会記念行事			
12月	クリスマス会	冬至	餅つき	大晦日
1月	正月	新年会	鏡開き	七草
2月	節分	ハロウィンデー		
3月	ひなまつり	ホワイトデー	春彼岸	バイキング
その他	選択メニュー〔年間44回〕 鍋物の日〔年3回〕 バイキング〔年2回〕 食品自主点検〔年1回〕 検便〔月1回〕 厨房内大掃除〔年2回〕 ※給食業務＝外部委託 ※防鼠・防虫施行管理業務＝月1回委託			

7. 就 労 支 援 (生産活動)

(1) 利用者が作業を通して社会経済活動に参加し、喜びと生き甲斐を感じることができる働く場としての機能を有するとともに、就労に必要な知識及び作業意欲の向上・維持を図る。作業種目については、年齢や健康面に配慮して、利用者個々の能力や障害程度に応じて選定し、作業時間や作業量が負担とならないよう配慮し、次の重点目標を定め就労支援を実施しました。

- ①協力企業と連携し、地域の実情や景気の動向を把握し、受注の安定確保に努めました。
- ②信頼される品質管理と効率よい作業工程の管理に努め、納期を厳守することに努めました。
- ③作業の開拓を常に心がけ利用者の個々の能力に対応できる幅の広い作業の確保に努めました。
- ④不良品が発生した場合、速やかに要因除去の対策を講じました。
- ⑤安全対策、不測の事態、バリアフリーに対応した働く場としての環境作りに努めました。
- ⑥工賃向上の目標値を設定するとともに、生産性向上を図るための改善に取り組みました。
- ⑦働きやすい事業所の環境作りに努めました。

(2) 工賃は、利用者の社会参加の在り方を示す重要な指標であり、工賃の向上は必要不可欠のものであるため、工賃向上計画三年目の平成26年度に目標達成できたこれまでの取り組みを精査し、平成27年度は「新工賃向上計画」を策定し、工賃向上の目標値を設定し、その実現に向けて、現状の課題の分析、工程見直し、作業の確保等安定的な運営に資するための具体的方策、計画に基づく業務を実行し、利用者の働く意欲の向上につながるよう努めました。

(3) 委託加工部門の作業は次のとおり実施しました。

①ヘルメット加工

ヘルメットのごバンド、RA バンドの組み立て加工は、人体の安全を守るための規格に沿った作業工程であることを理解し、作業指示書による作業を徹底し、品質の確保と作業工程の効率化に努めました。

②ハーネス加工

作業標準・作業指示書による作業の進め方を徹底し、品質の向上と納期の厳守に努めるとともに材料管理・一次検査等すべての工程を行える人材育成に努めました。

③簡易作業（肩パッド、割箸、その他スポット作業）

作業効率、納期、工賃目標などにとらわれない作業種目とし、生産活動プログラムを整備し、利用者個々の能力、生産性を生かして作業を進めるとともに、年齢・体力・健康面に配慮し、多様なニーズに対応しながら生産活動の機会を提供するように努めました。

- (4) 小規模ながらも事業所としての安定を図るため、関係機関と連携を図るとともに、情報発信とPR活動を推進し利用者確保に努めるとともに、送迎業務についてもできる限り対応しました。

8. 非常災害対策

- (1) 火災・震災・その他の災害の予防及び利用者・職員等の生命の安全並びに被害を最小限にとどめることを目的とした消防計画に基づき非常災害対策を遂行しました。
- (2) 年2回の消防設備の法定点検と、スプリンクラーの点検、非常口、建物の定期的な自主点検に加え、利用者の使用している電気器具の点検ならびに、事故防止のための建物の巡視を日常的に実施し、事故発生の絶無と事故防止の徹底を図りました。
- (3) 火災・震災・水害等の非常災害時には、青松苑消防計画に基づき、利用者、職員が迅速かつ適切な避難行動がとれるよう訓練の充実を図るとともに、法人内施設、地域消防団、地域の防災協力者の方々の協力を要請している緊急連絡体制が、有事の際、速やかにかつ有効に機能するよう訓練の徹底を図りました。
- (4) 災害発生時に一般の指定避難所での生活が困難な高齢者及び障がい者の方を受け入れるための福祉避難所としての機能の整備と非常食等の備蓄を図り、地域の避難所としてだけでなく東北ブロック被災施設への物資支援へ対応した体制整備を図りました。
- (5) 主な訓練等を次のとおり実施しました。

訓練内容	回数	備考
避難訓練	11回	通報・避難訓練を毎月実施（2月を除く）
総合避難訓練	年1回	消防署立会いの下で実施
夜間想定防火管理検証	年1回	夜間想定マニュアルにより実施
地震・水害想定避難訓練	年1回	地震・水害を想定した避難訓練の実施
地域総合防災訓練	年1回	防災懇談会と避難訓練を消防署立会いの下で実施
消防設備法定点検	年2回	業者委託により実施
消防設備自主点検	毎月	防火管理者により実施
防災指導・教育	年1回	消防署による火災等に関する講話の実施
設備器具・障害物点検	随時	電気器具等点検、落下物点検
災害時備品点検	随時	非常食・備品保管状況点検、消費期限等確認

9. 職員研修

- (1) 職員研修計画書及び青松苑職場研修実施要綱に基づき、職員を各種研修会（Off-JT）に積極的に参加させるとともに、法人内においては、新任職員研修、救急救命講習等、施設内においては必要事項の研修会（OJT）を適時実施しました。また、必要に応じて先進施設の視察研修や研修の成果をフィードバックする機会等を設け、社会福祉事業従事者としての専門知識の習得と実務体験

の積み重ねを通し、自己研鑽しながら成長と達成を実感できる職場環境づくりに努めました。

(2) 主な外部研修 (Off-JT) の内容は次のとおり実施しました。

- | | |
|-----------------------------------|----|
| ①福島県社会福祉協議会主催研修会 | |
| ・社会福祉施設職員生涯研修 (新任職員) | 1名 |
| ・社会福祉施設職員現任研修 (障害者施設職員・看護等職員・栄養士) | 3名 |
| ・課題別専門分野研修 (福祉避難所・リスクマネジメント・苦情解決) | 2名 |
| ②社会就労センター協議会(セルフ協)関係研修会 | |
| ・東北地区社会就労センター協議会職員研修会 | 1名 |
| ・福島県授産事業振興会職員研修会 | 1名 |
| ③その他関係団体主催及び各種制度に関する研修会 | |
| ・認知症対応、口腔ケア、食のリハビリ等セミナー | 3名 |
| ④喀痰吸引等研修 (第三号) 修了者 (認定証交付者) | 2名 |

(3) 法人内研修、施設内研修及び研修報告会

上記研修会のほかに、職員の資質の向上に役立つ内容については講師等を招き積極的に施設内研修や講習会を実施し、また、研修の成果をフィードバックするために、定期的に研修報告会を開催しました。

- | | | |
|------------|----|----|
| ①法人内新任職員研修 | 1回 | 1名 |
| ②普通救命講習会 | 2回 | 3名 |
| ③研修報告会 | 4回 | |

10. 施設整備等

下記の設備・備品等の整備及び環境整備を行いました。

- ①ギャジベッド1台 (年次計画)
- ②電気温水器交換
- ③誘導灯バッテリー交換
- ④GHP室外機冷媒管ガス漏れ修理
- ⑤トイレフラッシュバルブ、給水管等の修理